

業況・売上、小売業に改善の兆しも 製造業は依然として悪化

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成27年4月～6月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種20社を対象に行っています。今回の回収率は78.5%でした。

- 【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。
○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合)
※悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲29.4で前回(H27年1月～3月)より3.1ポイント改善。業種別に見ると製造業は悪化、小売業は19ポイントの大幅な改善となった。製造業は▲42.3と4期連続の悪化。製造業の経営上の問題点としては需要の停滞、次いで原材料価格の上昇といった意見が上がった。

全産業売上高の動向(表2)：前回(H27年1月～3月)は▲38.8と過去3年間の中では最も低い水準だったが、今回は13.3ポイントの改善となった。特に小売業が29ポイントの大幅な改善。

全産業雇用人員の動向(表5)：前回(H27年1月～3月)のDI値は▲8.8と悪化傾向にあったが、今期は▲2.9と緩やかに改善傾向にある。

表1

業種別業況判断の動向

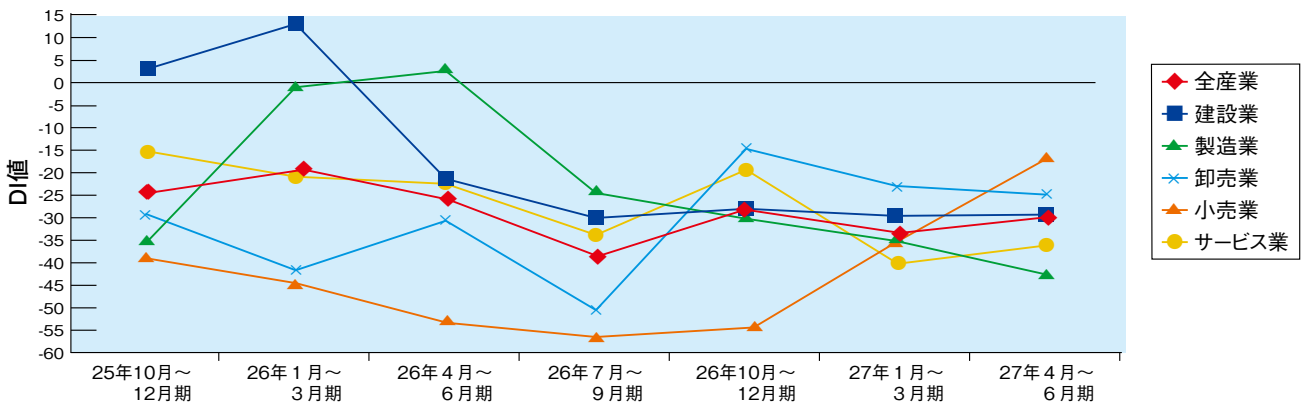


表2

全産業売上高の動向

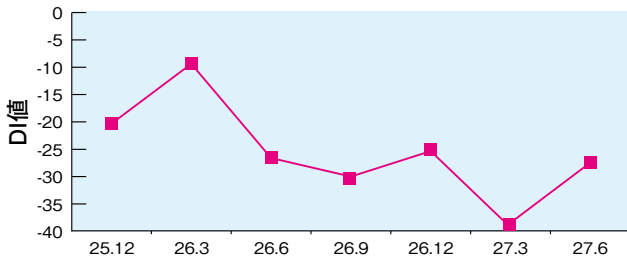


表3

全産業資金繰りの動向

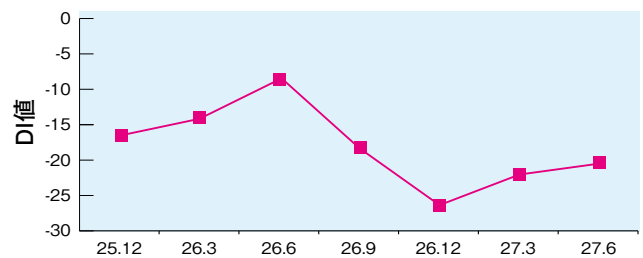


表4

全産業採算の動向

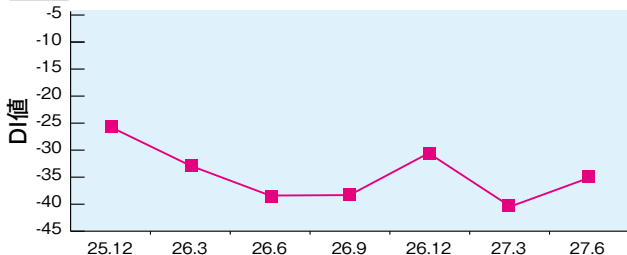


表5

全産業雇用人員の動向

